＜株式会社エフエム東京　第４４２回放送番組審議会＞

１．開催年月日：平成 29 年 10 月 3 日（火）

２．開催場所　：エフエム東京　本社 10 階　大会議室

３．委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名　社内 0 名）

◇出席委員（5 名）
横 森 美 奈 子　委員長
内　館　牧　子　委員　　秋　　元　　康　委員
ロバート キャンベル　委員　　川 上 未 映 子　委員

◇欠席委員（1 名）
渡　辺　貞　夫　委員

◇社側出席者（8 名）
冨木田　代表取締役会長
千　代　代表取締役社長
吉　田　常務取締役
森　田　執行役員編成制作局長
兼　株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延　江　営業局エグゼクティブ・プランナー
宮　野　編成制作局編成部長
若　杉　編成制作局制作部長
増　山　編成制作局制作部プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（3 名）
平　　専務取締役
村　上　取締役営業局長
西　川　常勤監査役

【事務担当　森田放送番組審議会事務局長】

４．議題：　番組試聴　（約 21 分）
『Blue Ocean』
2017 年 8 月 30 日（水）8:55～11:00

≪議事内容≫
議題 1:最近の活動について

■2017 年 8 月度 聴取率調査結果について

2017 年 8 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。（調査対象期間：2017 年 8 月 21 日～8 月 27 日）
当社コアターゲット M1F1 層（男女 20～34 歳）において前回 6 月度からさらにスコアを上げて、全日平均（6 時～24 時）で在京単独首位を獲得しました。単独首位は昨年 10 月度以来 5 期ぶりとなります。また、10 代男女、20 代男女、30 代男女区分でも単独首位となり、若者層を中心に幅広いリスナー層から高い支持を得る結果となりました。
好調に推移している F1 層では前回よりもスコアが上昇し、平日主要 9 ワイドでトップを獲得するなど、引き続き「女性に強い TOKYO FM」という結果を堅持できております。
また、先般課題でありましたリーチ（到達率）も徐々に回復できており、12～59 歳区分で、昨年１2 月以来の在京トップに戻すことができました。当社の統合メディア戦略による具体的実践として、日々番組を軸にした SNS の積極活用や、番組ニュースを記事化配信している「TOKYO FM＋」においても PV 数が上昇基調にあり月間 1400 万を超えており、放送外でもリーチ対策を積み重ねてきた成果が聴取率にも顕れてきていると認識しております。
なお、40 代男女区分においては今回も競合局と依然スコアに大きな開きがあり、課題を残しています。当社コアターゲットの若者層を中心に、その前後層にも支持される番組作り、共感される話題、選曲を精査し、さらなる聴取率の向上を目指してまいります。

■ せとうち DMO との「地域創生に関する連携協定」締結について

当社と「せとうち DMO（Destination Management／Marketing Organization）」（一般社団法人せとうち観光推進機構および株式会社瀬戸内ブランドコーポレーション）は、9 月 1 日(金)付で「地域創生に関する連携協定」を締結いたしました。
TOKYO FM は JFN 加盟全国 38 局と連携し、地域創生に向けたプロジェクトの第一弾として、瀬戸内を旅しながらその魅力を発見していく番組『NAGOMI Setouchi』を、瀬戸内海に面する 8 局ネットで放送しています。
その番組を核とした、瀬戸内の魅力の広報活動を担うことに加えて、「UIJ ターン」関連事業や、観光関連事業の推進、6 次産業活性化推進事業等の取り組み

を始めています。

本協定は、3 社が相互に連携することにより、それぞれの資源を有効に活用した活動を通じ、地域経済の活性化をさらに進めることを目的としています。

国内外における瀬戸内のさらなる認知の拡大、地中海を遥かに超える多島美の風景を持つせとうち文化圏を、世界 No.1 の和みの地へ発展させることを目指し、連携を進めてまいります。

当社はラジオ放送にとどまらず、「せとうち DMO」や地元企業と連携し、新たなオリジナル商品の開発・販売等にも取り組んでいきます。

連携協定締結後の初の取り組みとして、9 月 4 日より『NAGOMI Setouchi』の英語版を、TuneIn 上の「TOKYO FM WORLD」で配信を開始。日本にとどまらず世界に向けたインバウンド施策の一環として行ってまいります。

なお、『NAGOMI Setouchi』英語版第 1 回目の出演者は、2017 年 7 月に同番組の「旅人」として広島を訪ねている日本文学研究者のロバート キャンベル氏です。日本をこよなく愛する彼が広島県を訪ね、瀬戸内海に面する福山市鞆の浦（とものうら）、広島市平和記念公園、そして宮島を巡りながらその歴史とその地に息づく文化に触れます。

※瀬戸内のブームアップ促進・拠点番組『NAGOMI Setouchi』

今年 1 月より毎週土曜日に瀬戸内 7 県の FM 局と首都圏の TOKYO FM で放送を開始した『NAGOMI Setouchi』（毎週土曜　18:30～18:55 放送　※各局時間違い TOKYO FM / Kiss FM KOBE / FM 岡山 / 広島 FM / FM 山口 / FM 徳島 / FM 香川 / FM 愛媛）。

本番組では、毎月ひとりの表現者が「旅人」となって瀬戸内エリアを訪れ、そこに住む人々が大切にしてきた生活と文化の奥行きを見つめながら、今の日本人が忘れつつある「日本人の精神の奥深さ」を日本中のリスナーと共有することで、「癒し」や「和み」を感じられる「心の旅」を伝えていきます。番組で取材した現地の音風景や人々のインタビュー素材、取材映像をはじめ、せとうち文化圏に生活する地元の人々や観光客からの残したい原風景の写真や映像募集などを活用して『NAGOMI Setouchi』を国内外に発信、せとうち文化圏のブームアップとせとうちブランドの確立に貢献していきます。

＜これまでの「旅人」＞

2017 年 1 月の旅人：紫舟（書家・アーティスト）/2017 年 2 月の旅人：村治佳織（ギタリスト）/2017 年 3 月の旅人：古澤巌（バイオリン奏者）/2017 年 4 月の旅人:溝口肇（チェリスト・作曲家・プロデューサー）/2017 年 5 月の旅人:畠山美由紀（シンガーソングライター）/2017 年 6 月の旅人:ヤマザキマリ（マンガ家）/2017 年 7 月の旅人:ロバート キャンベル（日本文学研究者）/2017 年 8 月の旅人:小松亮太（バンドネオン奏者）/2017 年 9 月の旅人:池澤夏樹（作家）

■『JET STREAM』が平日早朝 5 時台に再放送開始

今年 7 月 3 日に FM 史上最長となる放送開始 50 周年を迎えた『JET STREAM』（月～金 24 時～24 時 55 分）では、放送 50 周年の感謝を込めて、10 月 2 日（月）より、毎週月曜から金曜の早朝 5 時～5 時 55 分、『JET STREAM＜再放送＞』を期間限定でスタートいたしました。（※東京ローカル）

これまで“午前零時の音楽の定期便”を通じ、『JET STREAM』に慣れ親しんでいただいたリスナーの皆様、そして、長い歴史の中で、ライフスタイルの変化に伴う早起きの方々へも、『JET STREAM』の世界観に触れていただける機会をお届けしていきます。なお、『JET STREAM＜再放送＞』は、2017 年 10 月～来年 2018 年 3 月までの期間限定での放送となります。

『JET STREAM＜再放送＞』概要

【放送日時】　毎週月曜日～金曜日　朝 5:00～5:55

【放送エリア】 TOKYO FM

【パーソナリティ】大沢たかお

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側意見）

○JET STREAM が早朝から再放送と説明があったがこれは、朝、起掛けの人に聴いてもらうという意図なのか。

■番組放送開始から 50 年という年月を経て、放送開始当初深夜に聴いてくださっていた方たちも年齢を重ね、夜遅くまで起きて活動していたのが朝早起きになるなど、ライフスタイルの変化が訪れた。50 周年という感謝も込めて、現在聴いてくださっている方に加え、そのような方たちにも楽しんでいただきたいと思い、早朝帯に再放送を編成した。

○JET STREAM は導眠剤というか、聴いて寝るという番組であったので、起きて聴くということに新鮮さを感じる。

○早朝の再放送の方が評判が良くなったら、その時間への移行もあり得るのか？

■その予定はない。再放送は 10 月から期間限定の編成。この番組は“午前零時の音楽の定期便”としてこれからも放送していく。

○早朝の再放送の意図が、ライフスタイルの変化と聴いて、なるほどなと思ってしまった。私は現在も 24 時の放送を聴いているが、早起きする人が増えた、ということには納得する。

○選曲は朝と夜で変えるのか？

■再放送なので同じものを放送する。1 週間前にオンエアした番組をそのまま翌週に再放送する。

○聴取率は絶好調のようだ。

■おかげさまで、M1F1 というターゲットレーティングにおいては好調な数字を獲得している。前回、6 月度では M1F1 が同率首位であったが、今回 8 月度では単独首位となった。

○何か、対策などを行っているのか。

■目には見えない部分だが、今年の 4 月より編成制作部が編成部と制作部の 2 つに分かれ、制作部が誕生したことにより、番組に対しより細かい演出などのディテールの部分でこだわれるようになったり、出演者とのコミュニケーションや企画内容の推敲も深く行えていると思う。また編成部も、より深いプランニングが行えるようになった。どれだけ多くの人に接触してもらえるかという「リーチ」の部分で、例えばインターネットを使った PR の施策などが功を奏している。そのようなことが複合的に絡み合い、このような結果につながったと考えている。

○女性からの支持が強いということはとても喜ばしいと感じる。女性の方が習慣性をもって聴くのだろうか。

■おかげさまで女性からは長く高い支持を頂いているが、編成部も制作部も幹部は男性ばかり。

○現場レベルだと女性スタッフはいるのか。

■本日ご試聴頂く「Blue Ocean」の番組スタッフは女性が多い方だが、番組全体では男性の方が多い。20 代の女性スタッフというのは制作においての課題の 1 つ。

○アパレル業界もそうだが、若い女性を相手にしているのに、裏側は男性ばかりで苦労をしていることが多いと聴く。その中でもこのような結果を出しているということはすごいと思う。

議題２： 番組試聴

【番組名】 『Blue Ocean』

【放送日時】 2017年8月30日（水）8:55～11:00

【番組概要】

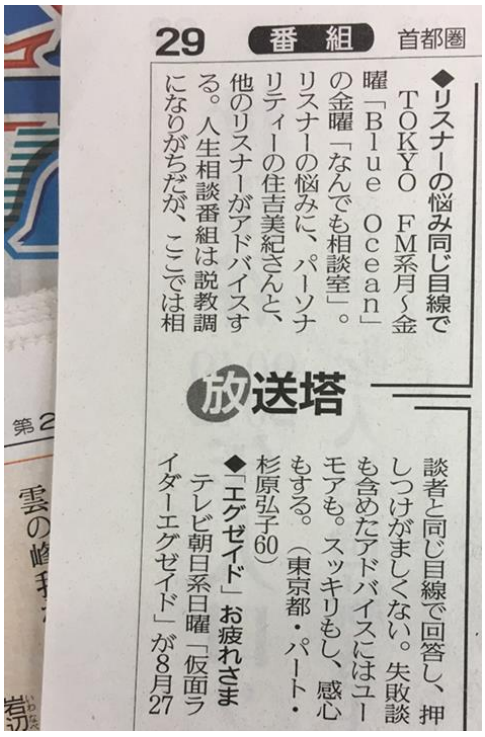
本日ご試聴いただくのは、平日月曜日~金曜日の 8:55～9:00 に放送している『Blue Ocean』の 8 月 30 日（日）放送のダイジェストです。

『Blue Ocean』は、フリーアナウンサー住吉美紀がパーソナリティをつとめ、2012 年 4 月にスタート。この 10 月で 5 年半続く平日午前の生ワイド番組です。

ターゲットは 20 代~40 代の女性層。社会問題や今話題になっている事象を、一方的なアナウンスではなく、リスナーからメールを募り紹介する形で取り扱っていますが、実際の体験者や、時には専門家からもメールが届くなど、多くの「現場の声」が寄せられるのが特長となっています。毎週金曜日の名物コーナー「大人のなんでも相談室」は、もともと、リスナーの悩みにパーソナリティが答えていたものが、リスナー同士で悩みに答えるコーナーに進化し人気となっています。

2017 年 8 月 30 日（水）放送回は、気になるニュースを一つ紹介するコーナーで、名古屋大学教育発達科学研究科の内田良教授に電話を繋ぎ、小中学校の教員の長時間労働問題を取り上げました。「外部指導員採用費用」として 15 億円の予算請求が行われるという報道があったタイミングで、この日の番組全体のメールテーマを「部活について語ろう」とし、リスナーの部活体験を紹介しました。

番組へは、保護者、生徒、そして教員の方からたくさんのメールが寄せられました。また、放送終了後に、TOKYO FM のリスナーサービスセンターにも、現場の教員の方から話題として取り上げたことへのお礼のメールが届くなど、実際に関係する方々の現場の声や「本音」を紹介した回です。



29 番組 首都圏

◆リスナーの悩み同じ目線で

TOKYO FM系月～金曜「Blue Ocean」の金曜「なんでも相談室」。リスナーの悩みに、パーソナリティーの住吉美紀さんと、他のリスナーがアドバイスする。人生相談番組は説教調になりがちだが、ここでは相談者と同じ目線で回答し、押しつけがましくない。失敗談も含めたアドバイスにはユーモアも。スッキリもし、感心もする。（東京都・パート・杉原弘子60）

放送塔

◆「エグゼイド」お疲れさま

テレビ朝日系日曜「仮面ライダーエグゼイド」が8月27

◀9 月 12 日読売新聞朝刊
リスナーからの「投書」にて紹介。

■当日のオンエア楽曲
・PLAYBACK／JUJU
・夏のコスモナウト／スキマスイッチ
・スターヴィングｆｅａｔ．ゼッド／ヘイリー・スタインフェルド&グレイ
・Feel Like／［Alexandros］
・Sha La La Disco／NEIGHBORS COMPLAIN
・Japanese Beauty／小泉今日子
・ただ、ありがとう／MONKEY MAJIK
・打上花火／DAOKO×米津玄師
・さよならだよ、ミスター／横山だいすけ
・一生一瞬／Sonar Pocket
・若い広場／桑田佳祐
・カット・トゥ・ザ・フィーリング／カーリー・レイ・ジェプセン
・BLUE OCEAN／小室哲哉

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側意見）

○意図が良く分からなかった。平日、毎日放送している中で扱う話題の 1 つとしては、こういうものがあるんだ、と思うかもしれないが、改めて取り上げて注力して聴くと、違和感があった。教員の長時間労働問題について、私の専門分野ではないのでもちろん詳しいことは分からないが、番組内で大学教授を繋いだことにどんな意味があったのか、と。ラジオで電話を繋ぐことは良くあるが、限られた時間に、電話の向こう側との会話では通り一遍のことしか聴くことができない。今回も、専門家に話を聴いていながら、ごく当たり前のコメントしか引き出せていなかった。それならわざわざ電話を繋ぐ必要があったのかと。さらには、この教授が、この話題についてどのような位置づけのある方なのかも伝わってこなかった。それも踏まえて、教員の長時間労働の問題とパーソナリティの軽快なトークとがズレて聴こえてしまった。専門家に電話を繋いだりして、大上段に「教員の労働問題」を掲げると、掘り下げ方として物足りない。みんなで部活についてメールを募集し語り合う方がシンプルで分かりやすかったのではないか。

○なぜこの時間帯で取り扱ったのか？平日午前だが、部活の当事者である中高生が聴いているのか？

■放送した 8 月 30 日は多くがまだ夏休み期間で、特に、最終日にあたるとされるこの日にぶつけた。実際、学生たちからもたくさんのメールが来た。

○1 つ良かったなと思ったのは、途中でパーソナリティがメールに対しての自身のコメントで、「部活を辞めてもいいじゃないの。わたしも中学の時に辞めたけど、それで結果良かった」と言っていたこと。世間の論調とか、予想される回答は、「それでも頑張ったらいいことがあるよ、とか、つらいことを耐えたらきっと得られるものがある、継続は力なり、いつか感謝の気持ちになる」というものが多く聴かれ、どうしてもその方がきれいな回答にまとまる。そうじゃなかったのが良かった。

○先日、テレビで放送されていたドキュメンタリー番組で、ロシアのバレエ学校を扱っていたが、決定的に日本と違うと思ったのは、そこの生徒が「ライバルが勝ったことを私は祝福できない」とはっきり言っていたこと。日本ではまずあり得ない。徒競走でも同時にゴールすることを良しとしている文化がある。競争することが良いとは私も言いきれないが、日本に手を繋いで 1 番を決めない文化というのは存在していることは事実。私は体育会系と呼ばれる運動部に

は所属してこなかったけれど、運動部を経験してきた人を見ていて感じることは、「理不尽なことに耐えられる」ということ。先輩に対して「はい」「ありがとうございました」としか言ってはいけない環境で育った人は理不尽なことに対する忍耐力がすごい。逆に私は理不尽なことがあった時に「なぜ私がこんなことをしなくてはいけないんだ」とすぐに考える。そのような、「厳しい部活を乗り越えてきた」というような部活を取り上げた話題であれば気軽に参加できるが、今回のテーマのような教員の部活に起因する長時間問題や文科省の予算などについては、予算で言えば 15 億という数字が多いのか少ないのかも分からないし、長時間労働を扱うなら、昨今騒がれている働き方問題や過労死まで広げて掘り下げるなどしないと物足りないのではないだろうか。住吉美紀というパーソナリティが教員の長時間労働問題に取り組む理由などがあるならまた違ったかもしれないが。

〇流れが偏っていたように思う。リスナーの声を取り上げたのは良かったが、パーソナリティのコメントはちょっとありきたりで、もう少し個性があっても良いと思った。

〇私も部活に携わっているが、現在は、子どもたちも縛られることを嫌い、部活よりもサークルを好む人が増えたように思う。今回のテーマで、部活に入らない人の話を聴いても良かったように思う。

〇最近拝読したラジオの記事で、以前は若者の間では「オールナイトニッポン」の 1 人勝ちだったが、「SCHOOL OF LOCK！」が誕生してからは形成が変わったとあった。学生目線に立ち、部活を応援し、地方に出向くことが学生たちからの強い支持に繋がっている。また別の特集では、「SCHOOL OF LOCK！」が学生たちの今時の「学校観」を具現化させた、とあった。今時の学生たちは SNS が当たり前になった世の中で、「1 人コンプライアンス」というのを自身に課していると聞く。とても閉塞感があるだろう。そういう中で、パーソナリティの本音と繋がっていくことは意味があるのかもしれない。パーソナリティにはそういうものを期待する。住吉美紀というパーソナリティは経験もあるし、もっといろんなことをリスナーに語り掛けることができるはず。

〇私は今回のテーマを扱うことはとても意味があったように思った。番組の構成に関しては、1 本の電話と多数のメールだけじゃなく、もう少し方法があったようには思った。教授と電話を繋いだのも、「部活の顧問の負担を減らすため、外部指導員を起用することで、逆に生徒の負担が増えている」など、情報が知れたのが良かった。その中で、「部活のクオリティが求められる」とあったが、現在のクオリティがどうなのか、外部指導員の起用でクオリティが上がるか、

テニス部であればテニスは実際にうまくなるのかなど、具体的なことがもう少し伝えられたら良かったのではないか。メールだけではなく、学生や先生などの現場の人と電話を繋ぐなどがあったら違ったと思う。

○パーソナリティの住吉美紀さんが、進行はうまいが、腹の内が見えにくいということも感じる。夕方の「Skyrocket Company」で、パーソナリティのマンボウやしろさんや浜崎美保さんが全く忖度もなく勝手なことを言っている方が分かりやすい。芸人ではないので難しいと思うが、住吉美紀さんの立ち位置が、アナウンサーなのか、ブロードキャスターなのか、どちらにもつかず、パーソナリティとしてもう少しリスクを背負えても良いと思った。

○部活動問題のような、昭和の世代であれば良しとされていたような問題が今改めて見直されていて、だからこそ今回このテーマを取り上げたのだと思うが、そういう転換期である故に、予算を付けて外部指導員を起用した方が良いのか、教員の負担はどうなのか、いろいろな案があり正解や結果が分からないことだと思うが、番組としての意見やパーソナリティとしての意見があっても良かったように思う。それによって番組の雰囲気も変わって来る。否定などはしにくいし、簡単にどっちが良いとは言えないし、代替案を出すのも難しいので、結局送られたどのメールに対しても、「そうだよね」と当たり障りのないコメントをするしかできなくなってしまう。専門家の意見を取り入れたい、というのは良く分かるが、体験談などを織り交ぜた方がコメントは活きてくるので、例えば構成を逆にするのが良かったのではないか。最初にメールによるリスナーからの意見などを紹介し、その上で専門家に電話を繋ぐと少し違ったと思う。もしくは、専門家からの話を聴いた上で、住吉美紀さんが、専門家のコメントを自分の知識としながら話していたら良かったのではないだろうか。今回の放送では専門家に話を聴いたパートと、リスナーのメールのパートが分断されていたように思う。

○「Blue Ocean」という番組は朝の忙しい時間帯に良い意味で当たり障りのない情報を提供してくれるものとして拝聴している。その上で、今回のような話題を取り上げたのは、特別なことと思うが、逆にライトさが良い意味で可もなく不可もなく、たくさんの人に受け入れられたように思う。女性からの支持が強い番組であるとのことだが、メールを紹介して、「こんな意見もある」と、たくさんの人の声を紹介することが、女性層を中心に支持に繋がっているのだと思う。私自身も子どもが厳しい部活に所属したことがあって、「すぐやめなさい」とアドバイスして伝えたことがあるので「こんなにたくさんの人が頑張っていたのか」と発見にもなった。

○平日毎日（聴きやすく）聴いている番組の 1 回の 1 コーナーを取り上げて、みんなで眉唾をひそめて聴くのは、番組の趣旨からいったら違うのかもしれないと感じた。また、「こういうテーマは結論が出ないんですよね」と言って、取り扱うのはちょっとずるいと思った。「こういうテーマは結論が出ないことが多いけれど、それでも話してみよう」と言って話したその結果、「やっぱり出なかった」という方が良いと思う。

■このテーマを扱うのは 2 度目だが、反響の多かったテーマ。本日のご意見も受け止め、今度は現場で働く人に話を聴いて取り扱いたいと思う。

5.放送番組審議会の内容について
審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6.議事内容を以下の方法で公表した。
① 放送:番組「JOGLIS」
10 月 28 日（土）7:00～7:20 放送
② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 http://www.tfm.co.jp/

7.その他
次回の放送番組審議会を、11 月 14 日（火）に開催することを決めた。